

# 住友の歴史

[全2冊]

朝尾直弘監修／住友史料館編

〔上巻〕

四六判・二八六頁

定価：本体一、七〇〇円（税別）

ISBN978-4-7842-1703-8

〔二〇一三年八月刊行〕

〔下巻〕

四六判・三〇〇頁

定価：本体一、七〇〇円（税別）

ISBN978-4-7842-1762-5

〔二〇一四年八月刊行〕

近世初頭から銅の精錬を業とし、その後、金融・貿易などをも手がけ、近代の財閥につながる豪商の典型である住友の歴史をわかりやすく紹介。連綿と受け継がれる住友精神の源泉がここにある。

住友総本店（北浜時代）  
（住友史料館蔵）



下巻◆目次

第8章 イエの構成と組織

〈コラム〉 本家をとりまく親類中

第9章 大名との交際

館入と大名貸／大名貸の展開／対馬藩と朝鮮貿易／〈コラム〉朝鮮通信使の記憶

第10章 都市大坂が育んだ住友

奉公人たちのキャリア／大坂本店に隣接する吹所／金融業と借家・新田経営／都市社会の自治と商家／〈コラム〉住友家と縁の社寺

第11章 文化と公共への貢献

図書館の開設と大阪の文化的発展／地域への貢献と善行の家／人をつなぐ名家の学芸／奉公人たちの教養／伝来品とコレクション／〈コラム〉民の力量―寄付の背景―

第12章 幕末・明治の変革

近代へのめげえ／日本銅のかげり／幕末の苦難と争乱／維新の危機はどのように克服されたか／総理が生まれたとき／〈コラム〉変革の時代を見通した『半世物語』と『町人考見録』

第13章 近代化への対応

別子鉱山のインベシジョン／近代家法の制定と家制度の確立／ゆれる経済政策との苦闘／事業方針をめぐる葛藤／近代化と環境対策／〈コラム〉住友家と東京美術学校

第14章 世界市場への参入

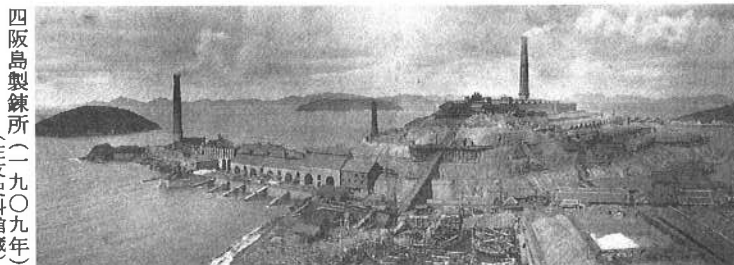
別子山の事業から金融・製造部門へ／世界市場をめざした事業展開／合資会社の設立と大阪の誕生／産銅資本から持株会社へ／軍事統制と自主経営のはざままで／財閥解体と住友グループの発足／〈コラム〉住友と建築

おわりに

参考文献／住友家系図／住友事業沿革図  
略年表／表・図・写真一覧／索引

上巻◆目次〔二〇一三年八月刊行〕

- 第1章 創業者の肖像
- 第2章 東アジアの銅貿易と住友
- 第3章 火と水と土石とのたたかい
- 第4章 鉱山都市と積出港市
- 第5章 銅貿易を支える仕組み
- 第6章 銅の生産と関連諸産業
- 第7章 住友の江戸進出



四阪島製錬所（一九〇九年）  
（住友史料館蔵）

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723  
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	住友の歴史 上巻	本体1,700円(税別)	ISBN978-4-7842-1703-8	
	冊	住友の歴史 下巻	本体1,700円(税別)	ISBN978-4-7842-1762-5	
お名前	〒		tel		書店番線印
	〒		e-mail		
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)				

## ※住友史料叢書

小葉田淳・朝尾直弘監修／住友史料館編

1620年代から大坂で銅の精錬を業とし、一時世界銅産市場においても重要な位置を占めた住友家は、その後金融・貿易なども手がけ、近代の財閥につながる豪商の典型である。その鉱業史料は、質・量ともにわが国屈指の基本史料であり、本叢書は1万数千点にのぼる近世史料のうち重要で継続する記録類を中心に編纂。

▶A5判・平均400頁／既刊28冊 揃本体259,000円(税別)

## ※日本銅鉱業史の研究

小葉田淳著

金銀山の個別の史的的研究を集めた、『日本鉱山史の研究』(学士院賞)、『続日本鉱山史の研究』につづく本書には、足尾・面谷・別子など日本を代表する鉱山の個別の史的調査研究に加え、付篇として産銅に関する近世の銅貿易と鑄銭についての論稿を収めた。

▶A5判・868頁／本体19,000円(税別) ISBN4-7842-0760-0

## 日本産業技術史事典

日本産業技術史学会編

明治維新以降、めざましい発展を遂げてきた近代化の歩みを支えた産業技術の変遷を跡づける、日本の産業技術史を俯瞰する。大項目には3ないし4頁の総説をおき、日本産業技術の流れを把握することができる「読む事典」。個別項目に関する知識を分野全体の展望との関連において示す。

▶B5判・550頁／本体12,000円(税別) ISBN978-4-7842-1345-0

## ミシンと衣服の経済史 地球規模経済と家内産業

岩本真一著

19世紀後半から20世紀半ばにかけて、シンガー社のミシンは世界を席卷し、東アジアはその最終市場であった。こうした状況下でのシンガー社の日本進出を中心に、近代日本におけるミシンの普及と衣服産業の展開を分析。

▶A5判・328頁／本体6,000円(税別) ISBN978-4-7842-1719-9

## 近世琵琶湖水運の研究

杉江進著

近世における堅田の変貌、後背地との結びつきにより分けられる三地域(「諸浦の親郷」(堅田・大津・八幡)・湖北四ヵ浦・彦根三湊)の対抗関係、船の航行と船支配の関係という三つの視点を軸に、近世前期琵琶湖水運の構造と特質、廻船規定、諸浦の盛衰を論究する。

▶A5判・464頁／本体9,000円(税別) ISBN978-4-7842-1551-5

## 老農・中井太一郎と農民たちの近代

大島佐知子著

農業近代化の過程で重要な役割を果たした「老農」といわれた農事改良者たち一。除草機「太一車」の発明者として知られる中井太一郎について、ライフヒストリーを丹念にたどりながら、彼の技術・思想や、その全国巡回を支えた組織・団体などを明らかにする。

▶A5判・388頁／本体7,500円(税別) ISBN978-4-7842-1710-6

## 飛脚問屋井野口屋記録 [全4巻]

渡邊忠司・徳永光俊共編

尾張領内と京都・大坂・江戸を中心に各地域を結ぶ尾張飛脚の飛脚問屋であった井野口屋の記録。原題は「井野口屋飛脚問屋記録(堅帳和綴、全33冊)で享保8年(1723)から天保14年(1843)までの記録を収め、近世の飛脚史・郵便制度の資料的空白を埋める貴重な史料。

▶A5判・平均450頁／揃本体40,600円(税別)  
ISBN4-7842-1078-4 ②-1108-X ③-1147-0 ④-1186-1

## 経済史再考

徳永光俊・本多三郎編

大阪経済大学日本経済史研究所開所70周年記念論文集。経済史研究の方法論5篇、日本国内外の経済史・経営史を実証的に分析した論文24篇を収録。【内容】経済史を考え直す／黒正史学再考／天野元之助と中国古農書研究／堺と長崎／近世地方金融資本「石州銀」と九州 他

▶A5判・620頁／本体12,000円(税別) ISBN4-7842-1153-5

## ※貨幣と鉱山

小葉田淳著

日本経済史研究の泰斗が中世から近世にいたる貨幣と鉱山に関する論考を集成。【内容】近世、銀・金の海外流出と銅貿易の動向／日本中近世の貨幣事情／領国武田氏の幣制と家康の幣制の確立／佐渡鑄造の金銀貨、とくに印銀通用について／近世鉱山史料について／近世鉱山経営と藩の統制／近世、日向椎葉山の銅山について 他

▶A5判・300頁／本体7,800円(税別) ISBN4-7842-1004-0

## 近世鉱山社会史の研究

荻慎一郎著

鉱山社会史研究の視点から、従来の研究で欠落していた支配・経営構造、技術受容と生産体制、労働組織、鉱山法や住民の社会生活などの実態を大蔵金山・院内銀山などの一次史料を通して明かす先駆的な業績。第7回高知出版学術賞受賞。

▶A5判・640頁／本体12,800円(税別) ISBN4-7842-0900-X

## 近代数寄者のネットワーク

齋藤康彦著

茶の湯を愛した実業家たち

高橋義雄、根津嘉一郎、小林一三…。彼ら近代実業家と茶の湯に関わる単なるエピソードの紹介ではなく、従来顧みられなかった茶会記録である『茶会記』のデータ分析を通して政界・官界・実業界を横断するネットワークを描出する。

▶A5判・308頁／本体4,000円(税別) ISBN978-4-7842-1603-1

## 伝統産業の成立と発展 播州三木金物の事例

桑田優著

兵庫県三木市の伝統産業、三木金物は近世後期に勃興し、現在にいたっている。本書は、流通機構の発達など社会的な背景にも着目し、三木金物が特産品として全国市場へ進出してゆく過程を跡づける通史。

▶A5判・302頁／本体6,500円(税別) ISBN978-4-7842-1523-2

## 牛と農村の近代史 家畜預託慣行の研究

坂垣貞志著

牛を介して取り結ばれる人々の社会関係を明らかにし、それが近代農村で果たした歴史的意義を解明する。そして歴史の片隅へ押し流されながらも、地域社会の調和と共存のために努めた名もなき農民群像を描く。

▶A5判・266頁／本体4,800円(税別) ISBN978-4-7842-1725-0

## 中近世農業史の再解釈 『清良記』の研究

伏見元嘉著

戦国末期伊予の軍記『清良記』全30巻を分析。その著者および成立年代を確定し、日本最古の農書とされる第7巻「親民鑑月集」の位置づけを明かす。近世農業の始まりとしての農書という定説をくつがえし、中世農業の最終段階をはじめて詳説したと位置づけ直す。

▶A5判・424頁／本体7,800円(税別) ISBN978-4-7842-1562-1

## 黒正巖著作集 [全7巻]

黒正巖著作集編集委員会編

1920～40年代、社会経済史学の誕生に大きな役割を果たした黒正巖の業績を全7巻構成で明らかにする。

【構成】①百姓一揆の研究／②百姓一揆論／③岡山藩の研究／④社会経済史の研究／⑤経済地理学の研究／⑥日本経済史／⑦農史の研究、年譜・著作目録

▶A5判・総2,800頁／本体56,000円(税別) ISBN4-7842-1122-5

## 東アジア経済史研究 第一集

大阪経済大学日本経済史研究所編 中国・韓国・日本・琉球の交流

日本における研究を発信するだけでなく、世界、アジアにおける研究情報を系統的に取り込み、データベース化し国際的な研究の発展と交流を目指して行われた第1回東アジア経済史研究会「近世・近代の東アジア経済史研究」(2007年大阪経済大学日本経済史研究所主催)。

▶A5判・344頁／本体4,000円(税別) ISBN978-4-7842-1498-3

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。  
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。